

開会挨拶 I

烏丸通まちづくり協議会 会長 長谷 幹雄 氏

皆様おはようございます。昨日に引き続きエリアマネジメントシンポジウム 2017、今日は分科会 in 京都という名前が付いていますけれども、昨日も出席された方はその熱気を感じていただけたかなと思います。昨日は会場に入りきれずに 2 階でサテライトの会場まで設けて開催するほどの活気で、本当に充実した内容の濃い会議ができました。我々の方としましても、会員の一人でございます細尾の方から烏丸通を中心としたまちづくりについてお話しまして、遠方から来られた方にも烏丸通についてよくわかって頂けたかなと思います。烏丸通は明治 45 年に拡幅整備されて以来、京都の都市の南北を貫く、人間で言えば背骨のような通りでございます、そこに商業や業務施設が集積しているということでございます。特に、大正天皇や昭和天皇の即位の儀式が行われる時にはそこを御幸通りと名付けまして、たくさんの観客が見守ったという京都で一番格調のある通りだと思っています。我々は烏丸通が歴史や文化を大切にされた品格ある通りにしたいと思っておりますが、今は少しもそうになっておりません。したがって、沿道の環境整備やさらなる賑わいの創出に向けた取り組みを行うことが必要であると考えております。

さて、烏丸通の拡幅工事が行われてからちょうど 100 年目にあたります平成 24 年 12 月に烏丸通まちづくり協議会は結成されました。設立は、地域の住民や烏丸通に面している業者などの方々が中心になって行われました。本日このシンポジウムが行われているキャンパスプラザの辺りにも京都駅の西部エリアのまちづくり協議会があり、他にも姉小路界隈まちづくり協議会の谷口さんなど、歴史が伴う京都ではボランティア活動を含めていろいろなまちづくりの活動が活発に行われております。京都はご存知の通り、観光客がここ数年で急増しております。特に平成 27 年度の宿泊客数は過去最高の 316 万人を数え、アメリカの有力な旅行雑誌では行きたい都市ランキングで 2 年連続世界 No. 1 になりました。しかし、今年・去年と順位が少し落ちたみたいです。人がたくさん来すぎますと京都が持っているキャパシティを超えてしまい、超えてしまうと当然のことながらサービスの質が低下します。ランキングの低下には、キャパシティの問題も要因としてあるのかなという思いをしております。京都はできるだけ上質なお客さんに来てもらいたいと思っておりますが、特に上質なホテルが少ないという問題がありました。平成 26 年にはリッツ・カールトンが出来上がり、嵐山には翠嵐ラグジュアリーコレクションホテルが、去年にはフォーシーズンズが出来ておりますが、基本的にはまだまだ上質なホテルが足りないというのが現実でございます。

本日は 5 つの分科会が開かれることになっております。非常に面白いユニークなアイデアが出て来ると思っていますので、忌憚のない意見をそこで発表していただいて、それが皆様のまちづくりの参考になればこれほど嬉しいことはないと思っております。

最後になりますが、皆さんの手元に小さな友禅の冊子をお配りしています。京都は伝統産業がたくさんありますので、伝統産業を使ったものをこのようなイベントの時には配りましょうということで、MICE 開催支援補助制度という制度がございます。今回はこの制度を利用して皆さんにお配りすることができたということで、何かの思い出になればこれほど嬉しいことはありません。

色々と準備していただきましたこのシンポジウムの事務局の皆様には大変御礼を申し上げます。それでは、本日のシンポジウムが皆様にとって非常に有意義なものとなり、これからの活躍に貢献できるものになることを期待いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。